

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 4 号)

1 平成5年3月15日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

23番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会会長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第4号）

平成5年3月15日午前10時開議

日程第1

- 議案第 9号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第10号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第11号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第12号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第13号 館山市水田農業確立対策基金条例を廃止する条例の制定について
- 議案第14号 新たに生じた土地の確認について
- 議案第15号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて
- 議案第16号 新たに生じた土地の確認について
- 議案第17号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて
- 議案第18号 財産の取得について
- 議案第19号 財産の無償譲渡について
- 議案第20号 損害賠償の額の決定及び和解について
- 議案第21号 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第22号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第23号 館山市スポーツ振興審議会設置条例の制定について
- 議案第24号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に

関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第25号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第26号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例
(の制定について)

議案第27号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部
を改正する条例の制定について

議案第28号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定
について

議案第29号 館山市農業協力員設置条例の一部を改正する条
例の制定について

議案第30号 市道路線の認定及び変更について

日程第2

議案第31号 平成4年度館山市一般会計補正予算(第5号)

議案第32号 平成4年度館山市老人保健特別会計補正予算
(第2号)

議案第33号 平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算
(第4号)

議案第34号 平成4年度館山市水道事業特別会計補正予算
(第2号)

開 議 午前10時01分

◎議長(福原 勤君) 本日の出席議員数26名、これより第1回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第1、議案第9号乃至議案第30号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） それでは、通告いたしました4点について御質問を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

まず第1点は、議案第9号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について、御質問を申し上げたいと思います。これにつきましては、別紙資料の2ページから5ページに細かく出ておりますので、これを一括して質問を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。この改正につきましては、昭和54年に大幅な基本的な改革がなされて、各種附属機関から議員を削除するというのもあって、今日まで14年が経過したわけでございますから、それらについて、市長の基本的な方針と今後の運営について、お考えをお聞きしたいと思います。

まず第1は、当時この議員を各種審議会から削除するということに、市長の方の説明は、市長の附属機関に議員が入って審議するということは、二重審議になって好ましくないのではないかと、こういう形でもって提案されたわけでございます。当時数人の議員と私自身も、それに対していろいろな反対意見を申し上げたわけでございます。そのまず第1は、こういうことで附属機関から議員を削除すると、議員の意見というのか、意思というものが市政の上に反映されなくなるのではないかと、これはやはり問題があるのではないかということ。

2番目には、附属機関の審議内容というのは、ややもすると市議会の固有の所管に属する事項も審議するという結果になると、議会の審議権というのですか、そういうものを侵害するおそれが出てくるのではないかと。

3番目には、したがって全国の市町村でもってこういった審議会出ているし、いろんな自治省の指導通達の中でもって、こういうところには学識経験

者、そして議会議員も何人入れろというような形でもって実際に運営されているのに、館山だけ先行的にこれをなくすということについて、バランスの面からおかしいのではないか、こういうことを言ったのですけれども、当時の市長の答弁といたしましては、これらの附属機関の内容は、すべて議会でもって協議するので、それは心配ありませんと。議員の意見も、そういうことでもって十分尊重しますと。そして、またそういう形でやりますからと、こういう形であったものですから、多数決でもって今日まで至ったわけですが、現実として、この間審議会で審議された内容が、十分な形でもって、まず第1に議会への報告または事前に協議というものがなされたケースがほとんど見られなかったということ。空文に帰したということについて、これはどのように考えておるのか。

それから、2番目には、議会で議決するに当たりまして、総合計画とか都市計画、報酬審議会の答申というものがなされてまいりました。特に私は都市計画決定、総合計画の決定についていろいろな意見、また修正させたいもの、そういうものについてかなりいろいろな問題出したのですけれども、しかしそれらを取り入れるということになると、一応そういった答申案が修正ということになると、もう一度審議会に戻してやり直さなければいけないのもってそれは制度的にはできるけれども、実際的に困難であるというような形の中でもって、妥協してきた。そうなってくると、市の総合計画の都市計画、これは議会の固有の権限であって、これをどう決定していくかということは最大なのですけれども、しかしその審議するその草案、答申案をつくるのは、学識経験とかいろいろなことでやって、議会全然入っていない。そこで、審議されたものが議会に出てきて、実際的には議会としての立場、意見というものを申し述べても、それはそれだけで終わってしまって、答申案を修正とか云々とかはできない。したがって、都市計画決定はそういう形の中で決定されてきている。大きな誤差はないにしろ、かなり重点的な部面で、そういう問題が幾つかあった。端的に言うと、橋上駅の問題と総合病院、スポーツの問題、こういう点についてはかなり出てきたのだけれども、具体的にはまあまあということでもって、今後そういう点は対処しましょうという

ことで処理されておったけれども、こういう点はどのようにお考えになるのか、お伺いしたいわけでございます。

したがいまして、市長には今言った3点について、附属機関への議員の参加を基本的にどのようにお考えになっておるのか、基本的な考え方で結構でございますので、ひとつこの際聞かせていただきたい。

それから、大きな2番目としては、年齢配分の必要性がやっぱりあるのではないかと。これは、学識経験者のみです。専門機関とか、それと充て職の場合、漁業の代表者だとか、商工会議所の産業代表者だとか、青年団の代表とか、こういう代表者はこれはもう年齢制限、その他一切構わないのですけれども、学識経験者については、ややもすると高齢者に偏りがちではないか。学識経験者ですから、年数を積んでキャリアのある人、それで経歴書が厚いほど非常にいいわけですから、とにかく専門的な経験者ということになれば、お年寄りにはどうしても若い人はかなわないという結果が出てくるものですから、そういう傾向があるのではないか。この前も総務委員会の中でもって選管の意見した場合に、全員大正生まれだったということでもって、これはいいだろうけれども、もう少し年代的な配慮というものが必要ではないかと、こういうようなことが言われたわけです。私は、したがって学識経験者については、5人とか相当数多い場合には、やはりそういった専門的な要素は、これは基本でございますけれども、少なくとも大正生まれ全部にしてしまうというようなことだったりすることのないように、大正と昭和1けた、昭和2けたぐらいの3階層ぐらいにやはりある程度配慮してやっていかないと、若い人たちの意見、そういうもの等も反映されないということになるのではないかと思うのです。そういった配慮についてはどのようにお考えになるのか、年齢層による配慮を、学識経験者のところだけ、ここについては必要があると思うけれども、どうかということ。

それから、同時に婦人の地位の向上と社会進出ということについて、10年前に国際連合でもって国際婦人年10年というものが発案されまして、日本の国会におきましてこれを批准しまして、男女雇用平等法だとかいろんなものが出てきたのですけれども、やはりこれらの審議会、その他については、

自治省の通達等の中においても、できるだけ婦人も含めるようにということが指導されているように伺いますけれども、若干館山の過去のこういった機関について、婦人の進出というのが、非常にもうまれというぐらいであります。例えば婦人会の代表として入るのはあるのですけれども、学識経験者で入ってくるということは非常に少ないのです。そこら辺についての考慮は今後どのようになされるか。庄司市長は、非常にこの女性の問題について関心があるようでございますので、これでまたひとつ明らかにしていただきたい。

それから、3番目には、この学識経験者については多選の問題がやはり出てくるわけでございます。前の半沢市長さんの例を取り上げるのは、非常に僭越でございますけれども、半沢市長は、3選以上10年をめぐりにいたしまして、学識経験者の場合には、多選というのは大体やらないのだと、こういうことでおったことと、それからおおむね70歳になった方についての再選というのは、ある程度自粛してもらうということでもって、かなりそういうものが行われまして、当初非常に反感を買ったりした面もあったようでございますけれども、ある程度定着してきたわけでございます。庄司市長について今後、この附属条例の改正に伴って、これらの問題の学識経験者の任命について、もちろん産業とか商工会議所の会頭とか、そういう人が充て職で出るものは、それはやっている限り、そこで選挙されたり、そこで信任されているわけですから、多選とか年齢は関係ありませんけれども、学識者の場合には、そこら辺についての、やはり市長としての1つの方向を出しておいた方が、今後市長としてもやりいいと思うし、我々としてもその都度云々という批判を受けなくて、市はこういうふうに言っているということでもってやりいいものですから、そういう観点からどういうお考えをなされておるのか、支障がなかったら教えていただきたい。これが第1項目です。

第2項目は、議案第18号財産の取得についてでございます。これについては、ウエルネスリゾートパークの計画用地の買収10万6,498平米でございまして、2億1,991万6,263円をもって購入しようというものでございます。この点については、恐れ入りますけれども、説明資料の14ページをお開き

いただきたいと思います。ここに地図が出ておりまして、黒い部分が取得予定地ということになっているのですけれども、この予定地の割合は、全体の割合から何％ぐらいの今回買収割合になるのか、この点をまず1点教えていただきたい。

それから、2番目には、これまで買収をして、済んでおる土地と合わせて、今度の10万平米のものをプラスすると何平米ぐらいになるのか、買収済みが。それは、全体の何％ぐらいになるのか教えていただきたい。

3番目には、この中には造成地域と緑地地域というものがなされておるわけでございますけれども、造成地域の決定というのですか、予定というのは、どういうものを基準にしておるのか教えていただきたい。昨年の論議等の中でもって、いろいろなされた状況からいくと、土地の買収しやすいところ、買収の可能なところを造成地域として買っているように、山林とかそういうようなところでもって、ちょっと困難なところについては、緑地として残すというふうな形でもっていつているような傾向が見られたわけでございますけれども、この点についてはどうなのか。特に、もうこのウエルネスも具体的な段階に入っていくわけでございますけれども、土地の広さによって、土地の場所によって、そこに建物を後から植えつけていこうという、こういうような傾向が見られるけれども、その点はどうなのか。本来ウエルネス構想というのは、こういう建物やこういう施設をつくる。したがって、そういうものを必要な土地規模はどのぐらいでもって、それを地域の中でどう当てはめるかということが現実でございますけれども、今回の場合に造成地域と緑地地域というのは、非常にこのバランスが一定の基準ではなくて、そしてまた造成地域と緑地地域が非常に点々としている中でもって、非常に難しいようでございますけれども、そこら辺はどのようになっておるのか、お伺いをいたしたいわけでございます。

それから、第3番目の質問でございます。議案の23号でございます。議案23号館山市スポーツ審議会の設置条例の制定について、これは通告質問の中でもって、この基本的なものについてお伺いしましたので、きょうは条例的について、再度若干重複するところがあると思っておりますけれども、条例の立

場から2～3質問をしたいわけでございます。

そのまず第1は、第2条の任務の中に、教育委員会の諮問に応じて、これについて調査、審議するということでございますけれども、現段階でもってこの諮問する内容、項目はどういうものが具体的にあるのか、その点について教えていただきたい。

それから、第1項のスポーツの施設及び設備の整備に関する条項について、この中においては、この前の通告の中で400メートル競技場については、審議会等でもって審議していくということでありましたけれども、通告で出ました武道館、400メートル陸上競技場、これらについては、どういう形でもってこの審議会に提案していただけるのか。そして、その時期はどのぐらいを目安にしているのか、その点についてお伺いしたいと思います。

その次に、第2項については、指導者の養成でございますけれども、この中でリーダーバンクというものは、長い間基本計画等によっておるのですけれども、なかなか実現性が出ておらないのですけれども、これについてはどの程度事務局案が進んでおるのか。そして、それはこの2項に基づいてどういう形で提案されるのか、それはいつごろか、これもあわせて聞きたいと思います。

その次の第3項の事業のスポーツに関する事業の実施の中について、市長は非常に国際交流を打ち出しておりますけれども、スポーツの国際交流に関する事項等については、ここでもって提案する準備があるのかないのか、またそれらについて、国際交流今盛んにスポーツは行われているわけでございますけれども、それらについてはどのように指導育成というものをしていくのか、この審議会の関係等について教えていただきたい。

それから次に、第3条に移りますけれども、委員の構成が出ているわけでございますけれども、学識経験の割合、また関係行政機関というのは、どこどこを出すのか、わかっている範囲内でもって教えていただきたいと思います。

それから、最後になりますけれども、4番目に議案第30号でございます。市道の認定及び変更について御質問を申し上げたいと思います。この議案書

にございますように、認定道路の 338号線、339号線、1232号線並びに2142号線の用地の購入取得はどのようになされたのか。購入した面積、それから寄附で受け入れた面積、これがわかりましたら、割合をもって教えていただきたいと思います。特に寄附の場合に条件がつけられておるのかどうか、条件というものはあるのかないのか。例えば寄附をするから舗装してもらいたいとか、寄附をするから側溝を早急にやってもらいたいとか、そういうような寄附の場合に、その寄附の条件として何かそういったたぐいのものが、この議案に基づいた路線についてあるのかないのか、概略について教えていただきたい。

それから、2番目には 278号線、1112号線の変更についてですけれども、変更理由がどういう理由であったのか、その点についてひとつ御説明をいただきたいと思います。

3番目に、1112号線についてでございますけれども、ここは高井から北条海岸に至る都市計画道路の館山のメインになる道路でございますけれども、その道路がなぜこの都市計画道路の一部を残して市道を廃止したのか、この点についてその理由と状況を教えていただきたい。

それから、それに関連いたしまして、市道として八幡の海岸通りから踏切までの間の市道が残されてしまうわけでございますけれども、残されたことよっての利益と不利益がどういうことになるのか、今後都市計画路線としてあそこまで決定されているわけでございますから、その都市計画道路から除外するのか、それとも都市計画道路がああいう形で分断されてしまうと、今後都市計画道路として推進するのに、事業がおくれるというようなことも想定されるわけでございますけれども、そういった点については、支障は起きてこないのかどうか心配されますので、この点について御説明をいただきたいと思います。

以上申し上げまして、よろしく御答弁のほどお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第9号の大きな第1、市議会と各種審議会との関係について、市長はどのように考えているかとの御質問でございますが、審議会は、行政の重要課題について、住民の意向を反映させるため設置したものでございます。今回、議員の方々もこれに加わるによりまして、なお充実した審議会としようとするものでございます。

次に、各種審議会等の委員構成についての御質問でございますが、専門委員以外の委員の構成につきましては、幅広い階層から選任し、年齢、性別等を考慮してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、議案第18号の財産取得の問題でございますが、まずウエルネスリゾートパーク計画の面積及び買収率等につきましては、借地方針でありました緑地予定地について検討した結果、これを取得に改めまして、平成5年度から緑地も含めて用地取得を実施してまいります。計画全体面積は、公簿上で約67万6,000平方メートルで、このうち造成予定地が約35万4,000平方メートル、緑地が約32万2,000平方メートルでございます。また、取得率は、造成地では62.1%、緑地を含めた全体では30.1%でございます。

次に、早期に導入施設の配置を確定し、用地買収を進めるべきではないかとの御質問でございますが、用地の先行取得を図りながら、計画の熟度を高めてまいる所存でございます。

次に、議案第23号館山市スポーツ振興審議会設置条例についての御質問でございますが、これは教育長より答弁申し上げます。

次に、大きな第4、市道路線の認定及び変更につきましての認定路線における用地の取得方法についての御質問でございますが、市道1232号線につきましては有償取得でございます。他の路線につきましては無償でございます。

なお、開発予定に係る路線につきましては、排水、舗装等整備が完了しております。

また、市道1112号線における路線の変更につきましては、市道1214号線との重複部分を整理しようとするものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

(教育長高橋博夫君登壇)

◎教育長(高橋博夫君) お答えいたします。

議案第23号館山市スポーツ振興審議会設置条例についての御質問でございますが、委員の構成につきましては、各種スポーツ団体の代表者、スポーツに関する学識経験者及び市議会議員代表者、関係行政機関の職員等10名を予定しております。また、審議会におきましては、同条例第2条各号に定めましたスポーツ施設の整備や指導者の養成等、社会体育の振興と生涯スポーツの推進を図るための御意見や御要望をいただきたいと考えております。

以上。

◎議長(福原 勤君) 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) 附属審議会の条例につきましては、総務委員会でもございますので、基本的な方針というのですか、そういうものについてはおおむねわかりました。細かい点については、また委員会等の審議があると思いますので、ありがとうございました。

財産の取得についてでございますけれども、1つだけ聞きたいわけでございますけれども、これからやはりいろいろなスポーツ、ウェルネスについて、バブルの崩壊によりまして、かなりいろんな面でもってニーズというのですか、そういうものも変わってきておるので、ニーズにこたえるような新しいものも日進月歩出てきているわけでございますので、今後そういうものを十分入れていけるような、今の段階では配慮があるのかどうなのか。特にスポーツ施設等についても、具体的に審議会ができて、そういう中から答申されたもの等について、ああいうところに新たにそういうものの計画がおりていくだけの用地、またはそういうものの計画が今の段階で可能なのかどうなのか。かなり固まってきておるのかどうなのか。その点について再度お伺いしたいと思います。

それから、議案22号のスポーツ審議会の設置条例でございますけれども、非常にこれにつきましては、いろいろとお願いやら御無理を申し上げて、今日ようやく法律に基づくところの審議会ができたわけでございますけれども、これに今度魂を入れていかなければいけないと思います。そこで、そういう

観点で聞きたいのですけれども、予算を見ますと、その予算額も非常に少ないわけでございますけれども、この開催回数はどのぐらい予定しておるのか、予算との絡み合いで。

それから、2番目には、第2条の中でもって、調査研究をして答申すると、こういうことがうたわれているわけでございますけれども、この調査費等が予算にないわけでございますから、調査については当面考えておられないのかどうなのか。調査に当たっての経費なり、そういうようなものはどうなるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

それから、第3条の都市計画道路でございますけれども、3点目がちょっと答弁漏れになっておったものですから、再度お伺いしたいわけでございますけれども、八幡の海岸から八幡の踏切までの間が市道として残されて、踏切から八幡神社のところまでが、今度は今まで市道であったものが都市計画道路に変更されて、市道の廃止が出ているわけでございます。あそこから下が残ってしまうということは、この都市計画道路の完全開通に支障はあるのかないのかという点について、1点申し上げたわけでございますけれども、御答弁がございませんので、この点をひとつ。

それから、2番目にあそこでもって切ったことによって、市道として踏切から下の北条海岸までの入り口の部分が、これが市道としてあるわけですから、都市計画道路には編入されないわけでございますから、したがって今後これの都市計画道路への造成または編入について、こういう形でもってぶった切ってしまうというのですか、言葉悪いですが、切ってしまうと非常に支障が出ていると思うのですけれども、支障が出るのか出ないのか、それをどのようにお考えになるのか、この2点についてひとつ補充して御説明いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

まず、ウエルネスの事業でございますけれども、これが過ぎた4月から建設部で取り扱うことになりましたので、私の方から答弁申し上げます。館山市を取り巻く経済情勢というのは、御存じのとおり非常に厳しいものがある

うかと思います。そんなことで、バブル時代の諸計画がとんざしておるようなわけでございますけれども、とはいっても、館山市を取り巻くいろんな情勢、東京湾横断道であるとか東関東自動車道、そういったものが非常に明るいということは、また館山市にとっては、他地域から比べると何か有利だということは考えられると思っております。そういった中で、一応基本計画というのですか、そういったものはでき上がったのですけれども、これについてもやはり景気のいいときの絵であるということ。そんなことから、こういったことの基本的な考えということは、これから進めたいと思います。ただ、発表いたしました絵というものは、1つのこれからの経済情勢に伴っての変更もあり得るのではないかしらと思っております。辻田議員のおっしゃったとおり、スポーツというものはどうなのだという事とも、それについてもこれからの議員さんはもちろん、各関係の団体であるとか、いろんな人の意見を聞きながら、これからの館山市の生きる道というのは、このある意味においてはウェルネスに反映しなければならないのではないかしらと思っております。そういったことで、基本的な理念は生かしながら、中において運営の方法であるとか、あるいは場所であるとか、そういったものについてはどのようにしたらいいかということを考えていきたいと思っております。とりあえず、その前に用地が大事でございますので、用地の取得をさせていただきたいと思っております。それから、先ほど来ました緑地帯でございますけれども、これはその施設の周りのところでございますので、それについてもこれからは買収方式で考えていきたいと思っております。

それから、もう一つ、市道のことでございますけれども、都市計画道路と市道とはこれ別でございます。その中の都市計画道路と市道とはかぶさっておるものでございますので、それで実は説明書きの中で非常におわかりにならないこと、これは我々は反省しております。これからはそういうことのないように十分注意したいと思っておりますけれども、切った理由というのは、先ほども市長が答弁したとおり、八幡－高井線の整備に伴っての八幡神社から踏切のところが重複路線というのですか、実は道路がちょっと違っておりました。それが、道路が整備することによって一体化したということで、これの

重複を避けたわけでございます。さらに、その踏切から下というのですけれども、これについては、都市計画道路としての整備は、今後は課題はあろうかと思えますけれども、とりあえずは考えていないということ。ただし、市道の整備とすれば、当然側溝にもふたがない、いろいろなものがありますので、これについては市道として整備していこうと、そんなことで市道としての今後の整備の方針は決まっております。そういったことで、この道路は省いたわけではございませんので、都市計画道路とすれば将来的な問題であるし、とはいうものの住民の対策として、市道としての整備はしていきたいと思っております。そんなことでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

予算についての開催並びに調査費の件でございますけれども、今回ここに設置いたしますところの審議会につきましては、館山市のスポーツ振興の長期計画についての基本方針の基本計画をお願いするわけでございまして、初年度といたしまして、すべてをここで解決するということは不可能でございます。そのために、今回予算に計上いたしましたことにつきましては、3回程度を一応考えておりまして、委員さん方々の御自由な御意見や御要望をまず聞いて、それからさらに調査が必要になったものにつきましては、明年なり、再来年なり、それぞれの立場におきまして、調査をするということになれば、明年以降その調査費等は計上したい、こう考えております。

以上。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） おおむね質問事項について了解しました。あとは、委員会でひとつお願いしたいと思うのですけれども、1点だけ確認をしておきたいと思います。

今の建設部長の御答弁でもって了解したのですけれども、私建設委員会で土木委員会ではありませんので、ちょっと念を押しておきたいと思うのですけれども、あそこの踏切から下の八幡の海岸道路までの市道というのは、や

はり今回いろいろな土地買収だとか、その他でかなり支障を来して、あそこが残されたのではないかというふうに思うわけでございますけれども、その点はどうなのか。一挙にどうしてできなかったのかということが1点。

それから、あそこはジャスコができたり、富士ディーゼルの跡地利用について、いろいろと館山でも密度の高い市道になるわけでございますから、あそこも立派にやらないと、かなりたるんでいる部面もあるので、やがて都市計画道路として都市計画に移動するのだから、市としても余り手を入れなくてもいいのではないかということでもってやっていると、これが3年なり5年、6年というふうにはできなくなってくると非常に問題があるので、この点については、私は今でもかなりの部面を抜本的に、むしろ上との兼ね合いで、上のあれに負けないように拡幅、その他ができなければできないなりに、やっぱり同じようにしてこないと、上から道路おりてきて、あそこでもってがくんと悪くなってしまって、また下からいって上にいこうと思ったら、あそこの踏切でもって極端に道が、これは都市計画道路でもって国の方、こっちは市道だから、悪いのだということになると、市民の印象も悪いし、我々としても市道は悪くて、都市計画道路は、国道はよくなると、こういうような格好になると、そういうものが出やすいと思うのですけれども、その点についてはどうなのか。

この2点について、ちょっと念を押すようですけれども、ひとつお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 私の説明が悪かったかと思います。都市計画道路の路線は、北条海岸の道路、そこから上のそれからバイパスまでの間が都市計画道路でございます。そこには、当然別な名前として市道の路線が振ってあるわけでございますけれども。それで実は辻田議員さんがおっしゃる、用地取得が難しかったのではないかということのようですけれども、用地取得の難しさではなくて、とりあえず現在の都市計画道路とすれば、用地取得は要らないと、そんな関係からでございます。ただし、先ほども申したとおり、よく見ますと側溝のふたがなかったり、そういったことがございますの

で、それは市道として整備をしていくと。都市計画道路としての整備ではなくて、同じ道路を整備するから、同じなのですけれども、市道としての側溝整備等を計画的に行っていきたいということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告いたしました諸点についてお尋ねをいたします。

議案の第23号館山市スポーツ振興審議会設置条例についてお尋ねをいたします。説明資料の21ページ及び議案書をお開きいただきたいと思います。スポーツ振興法によれば、都道府県はこのスポーツ振興審議会を設置するとなっているのに対して、市町村では設置できると規定されているわけでありす。必ずしも設置が義務づけられていないことになります。それだけに、このスポーツ振興審議会を設置しているのかどうかという点に、その市としてのスポーツに対する姿勢が出てくるものと思われます。そこで、県内80市町村の設置状況はどのようなになっているのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、審議会の活動についてであります。スポーツ振興法ではスポーツ振興計画の策定や、またスポーツ団体等への補助金の交付に当たっては、この審議会の意見を聞かなければならないとされております。そこで、お尋ねいたしますが、この審議会の当面の活動として、どのようなことを予定しているのか、またスポーツ振興計画についてどのように考えているのか、御説明をいただきたいと思います。

さらに、この法律では補助金の交付に当たって、審議会の意見を聞くことが義務づけられていますが、結果としていわゆる各スポーツ団体等の補助金の獲得をめぐるの事前審査会というような役割になってしまうことも危惧されます。そこで、その委員の選出の方法が重要な意味を持つことになると思うのでありますが、委員はスポーツに関する学識経験のある方及び関係行

政機関の職員の中から任命するとしております。どのような方に審議委員をお願いしようとするのか、また10名以内というのはどういう意味なのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第24号館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例について及び議案第25号の館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねをいたします。

昨年9月市議会の私の質問で、ヘルパーの派遣対象が、介護ができないから介護を必要とするに既に国の基準が改定され、派遣対象は大幅に拡大がされている。市の条例も、一刻も早く改定すべきではないかと指摘をしたところでありました。今回の提案は、その趣旨に沿ったものと理解し、関係者の皆さんの御努力を心から歓迎するところであります。このホームヘルパーの問題は、今後期待されている在宅福祉の充実にとって、中心的な役割を果たす事業だと思います。そこで、こうした事業の前進を図る上で、現在の状況や問題点についてお尋ねしたいと思うのであります。

まず第1点は、今回の市の提案は、ヘルパーの派遣対象世帯を従来の介護できないから介護を必要とするに変えた意味は、大変に大きな意味があると思うのであります。ひとり暮らしや老人世帯ということに限らず、老人のいる世帯ではすべてこのホームヘルパーの派遣対象になり得るということになりますから、間口が大幅に広がったことになります。今回のこの措置は、国の基準の変更によるものでありますが、私の承知している限りでは、必ずしも市町村で派遣対象の拡大措置をとっていないように理解をしているのであります。こうした派遣対象の拡大措置をとったのは、県内80市町村の中でどういうふうになっているのか、県内市町村の実施状況について御説明をいただきたいと思います。

次に、今回の改定案では、奉仕業務という言葉が介護サービスという言葉に変わりましたが、この言葉の違いは単に言葉の違いだけなのかどうか、サービスの内容の変化もあるのかどうか、この奉仕業務と介護サービスの違いについて御説明をいただきたいと思います。

さらに、今回の改定で私は派遣対象の拡大と同時にサービス内容の拡充と、法的には二重の意味で改善があるのではないかと考えております。そこで、それを本当に言葉だけに終わらせないで、実施することができることになるかどうかは、それを実施するにふさわしいホームヘルパーの体制の充実ができるかどうかということにかかっていると思うのであります。今回の措置を真に実効性あるものとするかどうかは、結局は人の問題であります。ホームヘルパーの体制の充実についてどのように考えておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案の第26号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例についてであります。現在5万円の葬祭費を、この4月から倍額の10万円に引き上げようとするものでありますが、この葬祭費については任意給付であり、全額加入者の保険税などの一般財源で負担するべきものであります。そこで、お尋ねしたい点は、どういう基準に沿って今回の引き上げが出てきたのかという点であります。県内80市町村及び安房郡市における葬祭費の動向がどうなっているのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第23号スポーツ振興審議会設置関連の問題は、教育長より答弁申し上げます。

議案第24号及び25号についての御質問でございますが、県内で派遣対象者について、国の要綱改正に基づき条例等の改正を行った市は、現在のところ1市であり、改正予定の市は館山市を含め2市でございます。

次に、介護サービスの内容につきましては、国の制度でございますホームヘルプサービス事業運営要綱により、食事、排せつ、衣類着脱、入浴、身体清拭、洗髪、通院等の介助及びその他必要な身体介護サービスと定められております。

次に、ホームヘルパーの充実につきましては、高齢者ニーズ調査の結果を

踏まえ、需要に応じた人員等を計画的に配置し、事業を推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、葬祭費についての御質問でございますが、県内30市の平成5年度葬祭費1件当たりの支給額は、10万円が16市、7万円が10市、6万円が2市、5万円が2市となっております。また、財源は国保会計の中の一般財源でございます。10万円の根拠でございますが、県下30市中16市、また安房郡全町村が10万円を支給することによるものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

議案第23号スポーツ振興審議会設置についての御質問でございますが、審議会が設置されております市は平成3年度末現在、県下では14市でございます。審議会の構成といたしましては、先ほどの辻田議員の御質問にもお答えいたしました。各種スポーツ団体の代表者及びスポーツに関する学識経験者等10名を予定しております。

また、スポーツ振興計画の策定につきましては、生涯スポーツの普及、振興を図るためには必要でありますので、審議会の御意見や先進地の事例を参考にし、策定してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 県内30市中14市でスポーツ振興審議会がつくられているということで、まだつくられていないところも半分あるということだろうと思いますので、館山市のスポーツに対する姿勢がそこそこののだなということが、県内との比較では、ではないかなと。運きに失したかなと思うのですが、これを機にスポーツ振興の施策が大きく発展するという転機に、ぜひしていただきたいなと思うわけです。

そこで、このスポーツ振興審議会が、予算関係については、事前の審査ということが法的に義務づけられているというようなことで、スポーツ団体等

の補助金等の交付に当たって、従来のやり方と変わることになるのか。そして、その際この審議会というものはどういう役割を果たすことになるのか。審議会をめぐって、何かそんな予算の分捕り合戦みたいな場になっては、本来の趣旨に反することになろうかと思しますので、その辺についてどういふふうなお考えで、このスポーツ審議会を考えておられるか、いまして御説明いただけたらと思います。

それから、身体障害者及び老人世帯のホームヘルパーの派遣事業に関してありますが、たしか国の要綱の変更というのは、もう1年以上前だったのではないかなと思いますけれども、かなり時間もたっている中で、県内でまだ1市しか実施をしていないというのは、いろんな見方はあると思いますけれども、やはりきちんとこうしたことを詰めながら議論を進めていくという点から考えると、非常に残念なことだなと。その中で、館山市がいち早くこういう形で条例の整備をしようとするのは、大変他市に先駆けたという意味で、評価できることだというふうに私は考えるところです。そこで、こういう形で、法的にもきちんと市が必要とする世帯に対して責任を負うのですよということを、従来も運営上はやっていたということはあるにしても、法的にもきちんとはっきりさせるということは、大変大きな意味がある。このことが、住民に十分周知されるということが大変大事なのではないか。今までは、老人世帯ですとか、極めて限られた人が対象だというようなニュアンスがあったり、そういう理解があったりということから、介護を必要とする、そういう老人を抱えた世帯はすべて対象になるのですよということになりますと、そういう内容として十分住民に周知をしていくということ、市民に周知をしていくということが、このせっきくの条例の改定の意味を実効性のあるものにしていく上で、大変大事なのではないかと思うのです。その辺についてどういふふうにご考えておられるかという点です。それと、これの裏返しでヘルパーの体制の問題出てくると思うのですが、この問題についてはニーズ調査に基づいてということでもありますから、それはそれで一応了解をいたします。

この条例の内容の問題なのですけれども、文章を読みますと、派遣の対象

は家族がサービスを必要とするというような書き方になっておりますけれども、私が理解しているところでは、国の要綱では本人及び家族が必要とするというのであったと思うのです。これ本人が削れたというのは、どういう意味なのかなということで、大変意地の悪い言い方で恐縮なのですが、ひとり暮らしのお年寄りの世帯で介護が必要だという場合に、本人の申し立てがなければできないわけです、家族がいないのですから。そういうことで、国の要綱では本人及び家族という言い方をしていたのが、市では家族というような言い方にされたのは、何か意味があるのかなと思うのですけれども、その辺は問題ないというふうに理解をしいのかどうか。

それから、葬祭費の関係でありますけれども、この葬儀のことに關しては、10万円というのは何を根拠にして10万円なのかなということで、横並びという考え方も出てきたと、それはそれで理解をいたします。葬儀に対して、公共事業という形でみんなでそれを見ていこうというようなことからすると、一体幾らが妥当な金額かなということで考えてみると、この葬儀の問題は考えれば考えるほどわからない問題で、非常に難しい問題がたくさんあるものですから、私も音を上げてしまって、横並びという中で一応出された内容について理解をいたします。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

委員の中の圧力団体的なものがあるのではないかという御懸念でございますけれども、賢明なる委員の方々のことだと思しますので、そのようなことはないと確信をしております。

それから、その次にきまして、大体が補助金関係のことについては、議員の御承知のとおり、建議をいただきまして、長期計画の中でそれを申請するということになりますので、その点についてもやはり長期的な中でもってそれは考えていきたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 今回のホームヘルプ事業の関係でございますけれども、まずPRの方法どうかということでございますが、この議会でこれを通していただきましたらば、幸い市の広報等にも福祉、年金関係のコーナーをわざわざとっていただいております。そういうことで、こういうところに載せて市民に徹底を図る。また、あらゆる機会を通じて、このPRを図っていきたいというふうに考えております。

それから、法文の関係でございますが、本人というところが抜けているのではないかとございまして、これは国の老人家庭奉仕員派遣事業運営要綱の改正によりますと、現行では本人というところはないわけでございます。申し上げますと、家庭奉仕員の派遣対象は老衰、心身の障害及び傷病等の理由により起床しているなど、日常生活を営むのに支障があるおおむね65歳以上の者のいる家庭であって、その家族が老人の介護を行えないような状況にある場合とする、これが現行でございます。いわゆる改正前です。改正後は、老人またはその家族が老人の介護サービスを必要とする場合とするということになっておりますので、本人というところは、ちょっといかがかなというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 大変申しわけないですけれども、今の御説明だと老人及びその家族がというのだから、私は本人という言い方しましたけれども、だからひとり暮らしのお年寄りが実際困ってしまったという場合、家族が申し入れしなければいけないという規定の仕方だと、その本人が申し入れできないという形になってしまっているから、条例上不備になりはしませんかということを言ったので、今の国の指導では、正式な文書では老人及びその家族がという書き方だと言うのですから、私が言ったとおりではありませんか。だから、それは運用でカバーしようというお考えで、特に何か特別な考え方があってそういうふうにしたということなのか、その辺をお聞かせいただきたいのです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 家族ということの中で本人も含むと。当然これは本人の意思とかそういうものがなければ、こういうニーズといいますか、必要というようなことはないというような考え方でございまして、他意はございません。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第9号乃至議案第30号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第31号乃至議案第34号の各議案を一括して議題といたします。

質疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告はありませんでした。御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第31号乃至議案第34号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

3月1日議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

延 会 午前11時03分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明16日午前10時開会とし、その議事は平成5年度各会計予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第9号乃至議案第30号

1 議案第31号乃至議案第34号

